

移動・空間・時間研究会

(いくじ研)

◎二宗美紀(文学研究科D1)、○峯下弘美(言語教育情報研究科M2)、山本晃子(文学研究科D3)、LYU Menting(文学研究科D2)、YIN Yuqi(総合研究大学院大学D5)*、川畑祐貴(国立民族学博物館)*、◎代表者、○副代表者、*外部メンバー又はゲスト

活動目的

世界の言語を対照しながら、認知言語学(認知意味論)やその他の言語学の理論を援用し、言語の空間時間認知の一端を明らかにすることを目的としています。

月例会の開催

・1カ月に一回程度、研究会を開催しました。ディスカッションを通して理解を深めました。

【活動テーマ(一部)】

- ・「朝鮮語の時間語彙における子音交替に伴う語感の変化(1): 語末子音の有無に関する語感の差異を中心に」
- ・An Experimental Study on Japanese and Chinese Action-Motion Multi-verb Construction and their event packaging conceptualization
- ・非文芸ジャンルにおける日本語の指示詞の使用傾向——明治・大正期の雑誌・新聞を中心に
- ・Conceptualization of Event Packaging in Chinese Action-Motion Serial Verb Constructions
- ・〈Es+ aquí〉構文について実例を考察する: 〈Está+ aquí〉表現と何が違うのか

特別講演会

・今年度は2件の講演会を主催しました。

講演会 1

講師: 金水 敏 先生

(放送大学大阪学習センター所長・大阪大学名誉教授)

題目: 「共感と指示詞・移動

—主観・視点現象について再考する—

開催日: 2026年1月26日



講演会 2

講師: 高垣 敏博 先生 (東京外国語大学名誉教授)

題目: 「越境するスペイン語のコピュラ (繫辞動詞)」

開催日: 2026年2月4日



業績 (2025年4月~2026年3月)

- Kawabata, Yuki (2025) Temporality and Gestures in Korean. The Kickoff Meeting of the JSPS International Leading Research Project. National Museum of Ethnology, 28 April 2025.
- 川畑祐貴 (2026) 「時空間語彙の言語地図化に関する試み」国際先導プロジェクト「『時空言語学』の創成: 地理と歴史を融合した言語の進化と発展への新たなアプローチ」研究会. 国立民族学博物館, 2026年3月19日.
- LYU Menting (2026) 「明治・大正期の童話における指示代名詞の使用傾向について—指示率および指示用法を中心に—」2025東アジア次世代フォーラム, 高麗大学校文科大学 (ソウル、韓国), 2026年1月17日.
- 峯下弘美 (2026) 「ピア・レスポンスの対話における自己理解の様相」立命館大学大学院言語教育情報研究科修士論文.
- 二宗美紀 (2025) 「〈Ser+ locativos〉構造の意味と機能に関する一考察: 主語は事象名詞に限られるのか?」日本イスパニヤ学会第71回大会. 口頭発表, 東京大学. 2025年10月4日.
- 二宗美紀 (2026) 「日本語の場所表現を伴う存在文の意味構造再考—名詞句の指示性に基づく日西対照の視座—」2025東アジア次世代フォーラム, 高麗大学校文科大学 (ソウル、韓国), 2026年1月17日.
- 山本晃子 (2025) 「日本語助数詞の使用実態と位相差: 新聞(BCCWJ)・日常会話(CEJC)・小学校国語教科書(COSMOS)の比較分析」『立命館言語文化研究』37(1): 149-166. (DOI: <https://doi.org/10.34382/0002004521>)
- 山本晃子 (2025) 「日常会話(CEJC)における包括的助数詞の使用実態—〈つ〉〈個〉による助数詞の代替機能に注目して—」日本学会2025年度秋季大会, オンライン, 2025年10月25日.
- 山本晃子 (2026) 「CEJCおよびXに基づく年齢差を表す〈個〉の使用実態と特徴」2025東アジア次世代フォーラム, 高麗大学校文科大学 (ソウル、韓国), 2026年1月17日.
- YIN Yuqi (2025) "Conceptualization of event packaging in Chinese Action-Motion Serial Verb Construction", A paper presented at Societas Linguistica Europaea 2025 August 26-29.